



第132号

三愛学園

令和2年10月10日発行

さんあい広報タスク

社会福祉法人 三愛学園

〒369-0212 埼玉県深谷市櫛挽 15-2

Tel 048-585-0605 Fax 048-585-0562

Mail san-ai@isis.ocn.ne.jp

URL san-ai-jidouyougo.org

児童養護施設さんあい 一時保護所オリーブ ファミリーホーム三愛茜の里 自立援助ホーム三愛子ひつじ寮



感謝できる日がくるのを信じて

施設長 高瀬 一使徒



コロナ禍で、夏休みに実施する各ホームの特別外出は自粛しました。その代わりにグループワークとして未就学児、小学生、中高生の3グループに分けて日帰りの旅行に出かけました。3密は極力避けることから、未就学児が水族館、小学生が動物園、中高生たちは川遊びとBBQをして楽しみました。

川遊びと言えば、埼玉県には荒川や利根川の支流が多く、川の流域面積が日本一大きい県らしく、施設から車で20分も走れば、3密とは無縁の安全できれいな川遊びスポットが沢山あり、ちょくちょく出かけました。

また、短い休みを少しでも楽しもうとホーム会議で子どもたちと話し合いました。そしてあるホームでは、子どもたちのリクエストにより、普段より豪華な夕食を食べ、普段より遅くまで起きてDVDで映画を観たりして楽しみ、最後はリビングに布団を敷いてみんなで雑魚寝することにしました。毎年大晦日の日は、雑魚寝しながらみんなで除夜の鐘を聞いて寝るというホームが多いのですが、それを今回の夏休みにもやりたかったようです。コロナ禍で非日常的な生活が続いている。だから、非日常的な楽しみ方で乗り切りたいという子どもたちの思いは切実のように感じました。



子どもたちは、短い夏休みでしたが工夫して楽しみました。勿論、それを陰となり演出したのは職員たちです。緊急事態宣言中は、日中施設にいる子どもたちのお世話をするので、普段以上の仕事をこなしてもらいました。心身のリフレッシュのために自分たちも夏休みを取りたかったでしょう。しかし現場職員は子どもたちを最優先に考えます。医療従事者と同様に施設職員も子どもを最優先に考える「プロフェッショナル」な仕事です。頭が下がる思いです。

さて季節は秋、そして厳しい冬が迫ってきます。厳しいと言ったのは、気候のことだけではありません。新型コロナウイルスとインフルエンザの感染リスクが増す季節だからです。施設では様々なことを想定して対策を講じなければなりません。これから日を追うごとに職員も子どもたちも緊張感を高めて生活していく必要があります。

「神は、すべてのことに働いて、益として下さる。」という聖書の言葉があります。今は土砂降りの雨の中のようですが、止まない雨はありません。そして、苦しかった時期を振り返って、「あの時があったから成長できた」「あの苦しみがあったから今の幸せがある」と思える日、感謝できる日が必ず来ることを信じて 1日、1日を歩みたいと思うのです。

ガーデンパーティー

2020.7.31

毎年、夏休みに入る前に園庭で開催をしているガーデンパーティーですが、今年は新型コロナウィルスの感染予防のため、外部のお客様はお招きをせずに実施をしました。ガーデンパーティーの前には、子どもの権利擁護の取り組みの一環として、歯科医で第三者委員の河田先生から子ども達全員を集めてのお話しもありました。当日は、なかなか明けない梅雨の長雨で直前まで外で実施できるか危ぶまれましたが、開始時間には太陽も出て、園庭でお部屋ごとのバーベキューやそうめん流し、綿菓子やかき氷を楽しむことができました。また、食べ物は無駄にしないようにと、職員が張りぼてで作ったスイカで、スイカ割りもしました。何度も叫るので、やりたい子たち全員が参加することができ、大いに盛り上りました。

例年より短く、外出にもさまざまな制限のある夏休みとなっていましたが、少しでも思い出の残る時間が過ごせたことは感謝でした。



部屋ごとのバーベキュー。女の子たちは浴衣でおめかし。



そうめん流し。うまくつかめるかな？



職員力作の張りぼてのスイカ。不死身です。



「右、左。あ、行き過ぎ！」みんなで楽しいスイカ割り



第三者委員の河田先生からのお話し

・カブトムシに夢中（ブログより）

小3男児のAくんは、カブトムシに夢中だ。時間があれば職員に近くの林に連れてって欲しいと頼みこむ。林にはカブトムシが集まるスポット（クヌギの木で甘い樹液がでているところ）があり、すでに何匹か採っている。先日は、その夢中さが高じてカブトムシとクワガタを模した戦国時代の兜を作ってしまった。しかし、どうして小学生の男の子は、カブトムシに夢中になるのだろうか？

女の子の方は、好きな子もいるがそこまで入り込まない。また中学生ぐらいになるとカブトムシへの情熱は薄れて行くのも定番路線だ。Aくんのカブトムシへの情熱は、他の男の子を凌駕している。できれば中学生以降もその情熱を維持して、カブトムシ博士になれればと思う。



今年から、男の子ブロック・かしのきのリーダーを務める奥木詩央里さんは入職4年目。明るくさばさばした奥木さんは、男の子たちの良きお姉さんです。



① さんあいで働きたいと思うようになったきっかけは何ですか？

高校生の時に、タイガーマスクを名乗って児童養護施設にランドセルを届けた人のことがニュースで取り上げられ、その後、そのような施設の状況を取り上げる番組が多く放映されたことから、興味を持ち始めました。さらに大学での学びやボランティアを通して子どもたちと関わる中で、本格的に児童養護施設で働きたいと思うようになりました。さんあいを選んだのは、職員同士や職員と子どもの関係性が良かったこと、楽しそう！と思えたことが理由です。

② 入職前に想像していたことと、実際に働いてみての違いはありましたか？

子どもたちが明るかったことです。様々な理由を抱えている中でも、子どもたちは毎日笑顔で元気に生活をしています。今は、その笑顔が仕事を続ける支えになっています。

③ 先輩（ベテラン）職員の働きを見て、これは真似できないな、ということはありますか？それは何ですか？

言葉の使い方・選び方、物事のとらえ方です。子どもに注意する時にはどうしても否定的な言葉を使いがちですが、先輩方はそのような言葉をあまり使わずに子どもたちと話し合います。強く注意をしようすると、そのことばかりに意識がいってしまいますが、先輩方は子どもたちの良いところは褒めつつ、でも注意すべき点はしっかりと指摘する余裕があり、さすがだなと感心させられます。注意も、ただ注意するのではなく面白おかしくする方もいて、それも真似ができません。後は子どもたちが問題行動を起こしたとき、自分は行動そのものにしか目がいきませんが、先輩職員は子どもたちにこういう生い立ちや経験があるからその行動になるのではないか、と行動の意味を捉えているところを尊敬します。

④ 入職して、一番辛かったことと一番うれしかったことは何ですか？

辛かったことは、あったのかもしれないけど思い出せません…。嬉しかったことは子どもから「奥木さんはいつも楽しそう」と言ってもらえることです。実際に毎日楽しく仕事をしているので、子どもたちにもそう感じてもらえるのは嬉しいです。



⑤ ストレスを解消するために何かしていますか？

ライブに行くこと、美味しいものを食べること、好きなだけ寝ることです。コロナで今は寝るしかできませんが…。

⑥ 今後の希望や抱負はありますか？

先輩方のように、いるだけで居室全体の雰囲気が明るくなるような職員になりたいです。そのためにも今以上に仕事を楽しみ、子どもたちにも信頼されるよう努めます。

⑦ これから児童養護施設で働くことを希望している方々へメッセージをお願いします。

とにかく毎日楽しいです！たまに辛いこともあります、そんなことがどうでもよくなるくらい子ども達と過ごす毎日は楽しきでいっぱいです。

グループワーク

幼児グループ：大洗水族館



新型コロナの影響で施設行事だけでなく保育園や学校行事も中止が相次ぐ中、特別な夏の思い出と一緒に作りたいという職員の想いもあり、幼児さんたちは9月1日にアクアワールド大洗水族館に行ってきました。もちろん、マスク着用、消毒液持参など感染予防は怠りません。今回は8名の幼児さんに対し9名の職員が引率。現地では1対1での闇りを大切にしました。幼児に限らず子どもたちは職員との個別の時間を求めていました。特に甘えたい盛りの幼児期におけるこうした闇りは満足感と共に安心を感じられる大切な体験になります。お弁当も職員一人一人がその子に合わせて作りました。水族館では綺麗な魚たちに喜ぶ女の子、大きなサメを見て怖がる男の子、イルカとアシカのショーでは想像以上の迫力にみんな大興奮。目の前の席まで大量の水が飛んできて「イヤー」という悲鳴がとても楽しそう！最後はお待ちかねのお土産屋さん。綺麗な貝殻やたくさんの玩具に「迷っちゃう～」とここでも可愛い笑顔がたくさん。それを見る職員もまた笑顔。自肃でストレスが溜まる中での楽しいひと時に感謝する一日となりました。



（青木義匡）

小学生グループ：群馬サファリパーク



8/3 小学生13名の参加で群馬サファリパークに行きました。久々の外出に笑顔が多く見られました。エサやりバスに乗車し、ホワイトタイガーやシマウマ等を間近で見る事が出来ました。特に盛り上がったのは、ライオンのエサやりです。間近で見るライオンに小学生は「大きい！」、「かっこいい！」と大騒ぎ。肉のエサを柵越しであげると、あまりの迫力に泣き出してしまう子もいましたが、みんな真剣な面持ちで行っていました。小動物との触れ合いでは、優しく撫でたり話しかけたりと新たな一面が見られました。夜は、園内のグラウンドで花火をしたことも夏らしい思い出の一つになりました。コロナウイルスの影響で学校が休校になったり、なかなか外出が出来ない中で大人以上に子ども達は窮屈に感じている生活だと思いますが小学生、職員みんなで楽しい夏の思い出を作ることができて良かったです。



（山本）

中高生グループ：ディキャンプ



今回の夏は、中高生グループワークでは事前に子ども達に行きたい所、やりたいことなどを聞き、その中から秩父のキャンプ場を目的地にして行ってきました！普段は中高生とはお出かけする機会が少ないので、道中の車内では久しぶりにゆっくり話をする事が出来、最近の学校での出来事や好きな芸能人の話で盛り上りました。川遊びでは、ゴーグルをつけ泳いでいる子、浮き輪でブカブカ浮いている子、飛び込みをする子、安全面に配慮しながらみんな自由に過ごし、職員も子どもと一緒にになって思いきりはしゃいで沢山笑いました。昼食のバーベキューでは、みんなお腹が空きすぎてお肉が焼きあがるのを待てず「お腹空いた～」とそこらじゅうから悲鳴が！！職員がお肉を焼く事に必死になっていると、それを見かねた子ども達が進んで焼くのを手伝ってくれました！！最後にスイカを皆で頬張り、夏の良い思い出になりました。



（鈴木）

嗜好調査

今年も嗜好調査を実施しました。内容については、毎年悩むところではあります、個々の食事に対する希望や不満など意見を聞けたらと思い、個別に回答してもらいました。食事については、ほとんどの子どもが良いと答えてくれています。その中にも中高生男児などからは「食事の量が足らない」や、好き嫌いの多い子どもからは「残さず食べることができない」という正直な意見もありました。また、食べ物の好みについては、おまかに食材を分けての質問をしました。どの食材も好きと答える子どもが多かったのが良かった点です。その反面、食材量の見直しや苦手食材への対応など課題も見つかりました。さんあいの嗜好調査は、少數意見を大事にし改善点には即対応し、子ども達に満足してもらえる食の提供を目指します。その為には処遇職員との協力が必要不可欠なので、食育タスクを通じ食について発信していく、より良いさんあいの食事=さんあいスタイルを作りたいと思います。

(栄養士：坂田)

しょくじ ★食事について	○よい	△普通	×悪い
しょくじ めにゅー 食事のメニュー	30	8	
まいにちたのしくしょくじ 毎日楽しく食事ができている	36	2	
しょくじ りょう たりて 食事の量は足りていますか	27	6	5
さんしょくたべて 三食食べていますか	34	1	3
しょくじ たべられて 食事はおいしく食べられていますか	36	2	3
のこさずたべて 残さず食べていますか	36	2	
しょくじ まなーまもれて 食事のマナーは守っていますか	20	14	4
★食べ物の好き嫌いについて	○よい	△普通	×悪い
ごはんは	25	11	2
パンは	32	5	1
めんるい 麺類は	31	6	1
おにく お肉は	25	9	4
おさかな お魚は	18	12	8

さんあいのアニマルセラピー

アニマルセラピーの一環で、3年前から犬とウサギの飼育を始めました。動物が大好きな子ども達が集まって出来た“アニマルクラブ”的メンバーが交代でお世話をしています。アニマルセラピーが効果を発揮する条件の一つに、動物が好きかどうかがあげられます。動物を用いての療法なのでやはり動物好きの子には様々な効果があるとされています。毎日お世話をする事で責任感を養い、動物との愛着を深め、そこに心のリラックスが生まれる。このリラックスを保てるよう知識を深め、サポートしていくつもりです。また、クラブではない子でも気分転換に動物との触れ合いを求めてくる子がいます。そんな時は犬にブラシをかけたり、散歩に行ったりと心が落ち着くまで動物と触れ合いながら過ごします。すると自然に、強張っていた表情から笑顔が戻ります。こういった触れ合いを求めぶどうの木(動物小屋)に来る子が増える度



に、アニマルセラピーの大切さを感じています。そんな大活躍なさんあいのアイドル犬“ポニー”は御年10歳です！

(アニマルセラピータスク：村尾)



毎日のお散歩



ウサギのお世話



新入職員紹介



7月から2か月間のアルバイトを経て9月より正職として入職しました、天沼新優です。以前は美容関係の仕事をしており、児童養護施設での仕事は初めてです。しかし、児童関係の仕事に興味があり社会福祉士の資格を知り、子どもたちの気持ちを考え寄り添えるような仕事がしたいと考えていた事がきっかけで、さんあいを知りました。未経験で未熟な私ですが、目標はこの頂いたチャンスを無駄にせず実務経験を積み、社会福祉士の資格を取る事です。又、資格だけでなく一人の人間としても成長できる様日々努力を怠らず頑張ります。宜しくお願い致します。

自活訓練

9月半ば、高2女兒の自活訓練をファミリールームで行いました。二泊三日の初日、ご飯の炊き忘れがありましたが、無事に終了しました。一人暮らしを想定しながら料理、掃除、洗濯を1人でよく頑張りました。本人は「楽しかった！次は一週間だな～！」と意欲的です。「寂しくなかった」と言う女兒の言葉に職員としてはどこか悲しい気持ちになりましたが(笑)賑やかなお部屋を離れリフレッシュもできたようで良かったです。

(岡西)

ダンスレッスン再開

3月22日を最後にずっとお休みしていたヒップホップレッスンですが、7月から再開することができました。勿論、新型コロナウィルスの感染予防を並行しての実施です。久しぶりの子やBTSのダンスをうまくなりたいという思いで今回初めて参加した高校生もいました。インカ先生も久しぶりのさんあいでレッスンで、指導に力が入ったようでした。インカ先生は、一人ひとりの指導も肯定的な声掛けで、子どもたちのやる気を出させて、飽きさせません。

(ブログより)

オリーブ

一時保護ユニットということもあります。在籍日数は様々です。日課の中には学習時間も設けています。学習ボランティアの方にご協力して頂いていますが、最近では、子どもの学習支援事業も活用させて頂いています。教え方やどんな教材が必要か子どもだけでなく、職員も学ぶ機会となっており、ありがたいひと時です。沢山の方々のご協力の元、子ども達は時にぶつかりながらも勉強に遊びにと毎日、元気に楽しく過ごしています。(小暮)

いつもあたたかいご支援ありがとうございます。

ご寄付は右記の口座にお願いします。＊お名前をお入れください＊

薬の正しい使い方

7月28日、埼玉よりい病院の坂本薬剤課長にお越し頂き、薬の正しい使い方にについて講演をして頂きました。事前に職員から出した多くの質問に答えて頂きながら、薬の種類や特徴、成分や効果について、服用の仕方、注意する事、など短時間ではありましたが多くのこと教えて頂きました。3年続けて講演して頂いていますが、繰り返し聞くことによって、薬に対する意識を保つことや、新入職員にも同じように知識を身に着けて欲しいと思っています。薬は正しく使ってこそ薬！

(松本)

いちょうの広場



茜の里

今夏の猛暑、コロナウィルス感染予防のマスク着用、体温チェック、外出規制等で、子ども達にとっては楽しい夏休みとはなりませんでしたが、自粛期間の振り返しは、少しづつ落ち着いてきたかに見えます。そんな中、子ども達にとって大切な愛犬が、癌でなくなりました享年十四歳。「ありがとう」の思いと共に、これからも各自の思い出の中に生き続けるものと思います。

(野口)

夏みかん

8月30日、7か月ぶりに風呂のやまき園で夏みかんを開催することができました。当日は特に暑く小屋の中はサウナ状態。汗だくになりながら急いで食事をした後、沢に行きました。水は冷たくて気持ちよく、木陰なので日焼けを気にせず遊べました。楽しみにしていた天然のジャンプ台が崩れ落ちていたので残念でしたが、水の溜まりが出来ていたので今度は天然プールで遊べる楽しみが出来ました。かき氷が美味しいと、何回もお替りをしました。

(野田)

編集後記

いつもと違った短い夏休みのせいか、9月になっても日付の感覚がずれたまま10月になりました。それでも日ごとに朝晩は涼しくなり、「秋の日はつるべ落とし」の言葉通りに日が暮れるのが早くなり、一気に秋めいてきました。今後もwithコロナの生活が続く中、インフルエンザやノロウイルス等の感染症対策にも留意し、健康で安心した生活を保てるようにしていきたいと思います。

(広報タスクー同)